

# 第97代福井県議会議長に仲倉典克氏

## 山積する県政課題に一つひとつ丁寧な誠意結論を導きだす

福井県議会第97代議長に自民党県政会の仲倉典克氏が就任した。中間世代として様々な意見に耳を傾け、将来に責任をもって取り組みたいと意欲に燃える。



仲倉典克福井県議会議長

なかくらのりかつ・平成15年県議選に初当選し、現在4期目。総務教育常任委員長や原子力政策・防災対策特別委員会副委員長などを歴任。拓殖大学政経学部卒。南越前町牧谷。48歳。

国を挙げた地方創生の取り組みが始まっている中、県は福井県版の総合戦略である「まち・ひと・しごと創生戦略」を今年度中に策定を予定するなど山積する県政課題への議会の重責を自任しつつ「一つひとつ丁寧な」を旨に誠意結論を導き出すと決意を示す。

なかでも、新幹線はあくまでも手段であり、県内延伸や開業を見据えた街づくりを今後しっかりと描いていかななくてはいけない。新幹線の芦原温泉・福井・南越・敦賀の県内4駅を中心を担うまちづくりに向けた取り組みの強化が必要であり、官民一体となった協力体制を呼びかけていく。さらに、住民が主体となって

我がまちの地域資源を見直し、小さな福井県だからこそ県民全体の総合力と団結力を発揮し、幸福度日本一といわれる福井県に誇りをもち、住みよい環境にますます磨きを掛けていくことが重要と指摘する。少子高齢化で出生率の倍増が有り得ない以上、今後は交流人口を増やし、地域に活力を見出していくしかない。そのためには、高速交通網の県内整備に二層拍車をかけ、飛躍の可能性を広げていきたいと期待をかける。

モットーは自然体で「福井の良さをもっと発信したい」。元国体のサッカー選手というスポーツマンで清々しく若さ溢れる行動力と卓越な政治力に今後ますます期待がかかる。